

朝のコンビニが変わった。今までの通勤ルートでは、いつも同じコンビニで牛乳を買っていた。今度の通勤ルートにも、複数のコンビニがあった。入りやすい場所ということで、自然と新しいコンビニが決まった。

今までと違うのは、牛乳ではなく、コーヒーを買っている点である。毎日、同じコーヒーを飲んでいては飽きるだろうと思われる。ところが、軽め、ふつう、濃いめの3つから選ぶことができる。これが大きい。3種類すべて飲んだことがある。結構違いがある。その日の気分や体調により、3つから選ばうと思う。とはいえ、今のところ、毎回悩んではいるが、ふつうを選んでいる。

今までの習慣が、よほど染みついているのか、どうしても早く起きてしまう。あまり早く出勤するわけにもいかない。そこで、リビングで、この「園長通信～こころ～」の原稿をスマホで打つはずだった。これが、続かなかった。どうもゆったりした気分にはなれない。出勤のために家を出るまでという、時間の制限があるからだろう。

作戦を変更した。今まで通りに家を出る。新たなコンビニでコーヒーを買う。車の中で飲みながら、スマホで原稿を打つ。文章にはコーヒーが似合う。牛乳では、元気は出るが、エッセイという感じではない。

文章を考えるには、そのための空間が必要である。作家であれば、常宿の同じ部屋だったりする。伊集院静さんにも、東京に常宿があった。山の上ホテルである。残念なことに、竣工から86年を迎える建物の老朽化への対応を検討するため、今年2月から、当面の間、休館となった。まるで、伊集院静さんの喪に服しているかのようである。

要するに、未だにペースがつかめずにいる。にもかかわらず、毎日、この「園長通信～こころ～」はアップされている。書くための題材はあるのだが、書くタイミングがつかめない。環境が変わるということは、それだけ心が動く機会が多いということである。これを文章にしない手はない。

結局、文章が浮かんでくる度に、スマホに打っている。意外と忙しい。せっかく浮かんだ文章を忘れてしまうのが怖い。スマホを手放すことができない。言うなれば、原稿用紙とペンのようなものである。

それにしても、コンビニの存在は大きい。まるでドラえもんである。いつでも何でも出てくる。どこにでもある。ありがたい存在である。もはや、なくてはならないものである。コンビニとコーヒーとスマホ、この組み合わせで、どうにかやっていけている。